

平成21年度 薬物乱用防止中堅指導員研修会 研修報告

中村芳生

平成21年10月22日(木)23日(金)

10月22日(木)

理事長挨拶

財団法人麻薬覚せい剤乱用防止センター

理事長 森 幸男

来賓挨拶

厚生労働省医薬食品局

監視指導・麻薬対策課 國枝 卓

若年者における大麻乱用ならびに芸能界における薬物乱用が大きく報道され社会的にも関心が大きくなってきている。

薬物乱用事犯は15000件にのぼり、その大部分が大麻であり若年化している。

入手方法としてはインターネットや携帯電話などの利用により巧妙になっている。

薬事法などの法をかいくぐるような新しい薬物の合成も行われるようになっている。

現実を真摯に受け止め、政府としては総合的な対応をとって第三次薬物乱用防止五カ年戦略、行動計画2008などを策定し取り締まり対策や水際対策の強化を図り、広報、啓発活動に積極的に取り組んでいる。

次世代を担う青少年を薬物から守るため、迷惑をかけなければ個人の自由ではないかとかという安易な考えで薬物に手を出すようなことのないように薬物に関する知識を正確に伝えること、つまり薬物は恐ろしいものであり使用してはいけないものである事を伝えていくことが重要である。

薬物関連問題の理解のために

中野総合病院

精神神経科部長 尾崎 茂

1、薬物乱用の現状

日本における乱用薬物は『覚せい剤』と「有機溶剤」である。

事件、法整備など時代背景との関係から説明。

薬物乱用のリスクに関する要因として ストレス・退屈を感じる・一週間に使う金額が多いほどリスクスコアが高くなる。(先進国、裕福な国においては)

2、乱用・中毒・依存とは？

乱用：社会的規範や医学的常識から逸脱した目的や方法で薬物を使用すること(多くは違法行為)

睡眠薬、安定剤、アルコールと一緒にのみハイになる

たくさんの薬物を取ると急性障害

乱用を続けると依存が起こる 依存(量を減らそうと思っても

酒、タバコ

身体依存(耐性が形成され使う量が増える)

退薬症状

3、薬物依存が生み出すさまざまな問題

4、薬物依存症の進行と回復およびその対応

薬物乱用防止啓発のための講演の実際

ライオンズクラブ国際協会

薬物乱用防止教育認定講師

寺田義和

～未然予防の効果および重要性～

1、未然予防の重要性について

薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」は珠玉のスローガン。

薬物問題の解決は、未然予防が最も効果的であり薬物汚染の状況に左右されない基本である。

センターのDVD「ダメ。ゼッタイ。」シリーズの再認識。

教材についてより刺激の強いものを選ぶ傾向がある。劇仕立てのものは実録内容を使ったものであるが所詮やらせである（茶髪、ルーズソックスが出てくるとその時点で自分たちとは違う世界の子であり関係ないと引いてしまうことがある）。幼稚と思われるが非常に科学的にできている。

最新のシリーズができている。（小学生には少し難しいが高校生にも十分耐えられる内容である。

2、薬物乱用防止教育認定講師として必要なマナーと知識

社会人として、人生の専門家として臨む。自分の価値に気づかない、家庭、学校、社会に疎外感を持っているような子が薬物に手を出す。人生を如何に生きるかが問題であり年長者が人生のプロである。核家族化が昔と環境を変えている。我々がおじいちゃん、おばあちゃんの役割をする。

子どもは近視眼であり、先が見通せないということを認識しておく。

人生の長さを教える。人生のすばらしさを教える。

学校が寄せる期待と信頼にこたえる努力をする。

社会の動向を捉え、常に向上心をもって努力する。

IT化によりあらゆる情報が氾濫しておりその情報に埋もれてしまう。その情報を取捨選択することができないのが子どもである。

寝た子を起こすなという議論があるが、今の時代は寝た子はいない。

大人の常識と子どもの常識は違うということを意識しておく必要がある。（自分が10歳のときを思い出してみれば分かる）

未然予防の話を未成年者にする場合は薬物をやった経験者が話すのは害があっても益はない。やった人間が話すよりやっていない者が話すほうが良い。

薬物経験者が大変良い講演をしてくれたことがあるが、薬物をやってもあのように立派に社会復帰できるではないかと思ってしまうかもしれない。この立派な話をしてくれた人は6ヵ月後また覚せい剤取締法で逮捕された。覚せい剤の誘惑というものはなかなか取れないということである。一日前にやっているかやっていないかは判らないことであるので、やはり子どもたちに話をするのはやっていない人が話すのが良い。

10月23日（金）

薬物乱用の現状と厚生労働省における対策

1、麻薬等について

麻薬の定義、特徴、依存症とは、ということについて

モルヒネ等の医療麻薬については適切な管理の下で使用すれば依存等の問題は生じない。体の中の神経の痛み等バランスが崩れている状態を麻薬等で元に戻すため依存は生じないことが科学的に証明されている。

健康な人は元々バランスが取れているので精神に影響を与えるようなものを使用すると依存が生ずる。

2、違法薬物・問題の所在

依存症の治療法は確立されていない。覚せい剤の再犯率は50%。

薬物乱用による社会的損失

薬物中毒、合併症の増加。凶悪犯罪、暴力行為による治安の悪化。犯罪組織、テロ組織の資金源。

3、我が国における薬物問題の特徴

世界推計：大麻 1億4300万～1億9000万人

合成麻薬 1600万～5100万人

MDMA 1200万～2400万人

コカイン 1600万～2100万人

アヘン類 1500万～2100万人

日本国内推計はないが 検挙者数の20倍位

覚せい剤 15000人

大麻 少ないがどんどん増えている(20代から30歳未満が多い)

大麻：最近話題になっている。大麻の栽培が問題。

最初に使う薬物

覚せい剤が8割以上

大麻

向精神薬の多剤併用が増えている(大麻等と)

脱法ドラッグ(違法ドラッグ)

4、我が国の薬物規制について

薬物規制に関する法律

5、第3次薬物乱用防止5ヵ年戦略

大麻種子に対する取り締まり強化

使用罪について：

種をまいた：不正栽培

種子：持っただけでも問題ないは誤解

不正栽培予備罪

提供罪

大麻パーティー：共同所持

暴力団からインターネット、携帯電話を使い販売し、顔が見えない方法になってきている。

繁華街から住宅街に。

青少年の薬物乱用と防止教育

立教大学

人間科学部臨床心理学科 石橋昭良

青少年問題の現状について

平成に入ってから、コンビニ、ファミレス、自販機の増加。

新たなメディアである携帯電話を通じたインターネットの普及。(情報化、有害情報)

学校における問題：不登校、いじめ、暴力行為(先生に対して、生徒間暴力器物損壊)

家庭における問題：個室化、小学校1/2 中学校2年生2/3。自分の部屋に専用テレビ、ゲーム

3人に2人が持っている。携帯電話の所有率2/3が所有

親子間の接触の時間が減っている

自分の部屋で何をやっているのかわからない現状

睡眠時間の減少(朝からあくびをする子が多い)

乱用の背景にあるもの

グローバル化(不法残留者)、情報化、ストリートレベル(闇の世界から街頭へ、ダイエット、

徹夜ができる)、暴力団の資金源、乱用動機(ファッション感覚、ストレス)

(マッシュルームをなべに入れて溶かして飲んだ)

非行の減少化傾向にある。

覚せい剤：少年の検挙の中で女子の割合が多い。

大麻：数は少ないが検挙されており一人検挙されれば周りに10~20人の可能性があり、集団に対する対応が必要がある。(50から100人の可能性がる)

シンナー：全体的に減少傾向

MDMA：都会では20代が多く酒を飲みながら乱用する(クラブ)

その他の薬物：ガスパン

使い捨てガスライター、汗止めスプレー(手足末端のシビレ感覚が堪らない)

教育：学校教育による正確な知識により減少。

薬物乱用防止教育のポイント

「薬物の正確な知識&判断力(断る力)」を身につける。

薬物の怖さを伝えるだけでは、効果がない

1、「有害性、違法性の知識」と「誘惑を断るスキル」

学齢に応じ判りやすく、正確な知識を伝える

例)薬物依存とは

例)脳の非可逆性

例)脅しでなく、誘われたときに断るスキルを身につける

2、ソーシャルスキルトレーニングによる防止教育

ア ソーシャルスキル（社会的技能）とは

ソーシャル：対人関係に関すること

スキル：知識や経験に基づく技能・技術（今の子どもにはスキル教育が必要）
挨拶する、電話をかける、謝る、誉める、仲間に入る、誘いを断る

イ 薬物乱用防止教育としてのソーシャルスキルトレーニング

身近な場面を設定して考える

言語的教示

なぜ必要？ 学ぶメリット

モデリング（観察学習、気づき）

モデル（具体的場面） 観察 気づき

リハーサル（体験学習）

実際の行動 改善 繰り返し

フィードバック

誉める、修正

学校における薬物乱用防止教育の進め方

東京都墨田区教育委員会

森本芳男

なぜ今教育改革か

学校、家庭、地域社会の連携と役割分担

学校・家庭・地域の役割り分担を明らかにするとともに学校と地域を結ぶ新たな仕組みづくりを構築することが急務といえる。

- ・学校を積極的に公開し、地域・家庭との信頼関係作りに努める。
- ・学校評議員や保護者等の外部評価を活用し、地域過程の声を教育活動に生かす。
- ・地域や保護者に必要な協力を意図的・計画的に示し、積極的に協力を依頼する。

外部講師の招聘や職場体験先の依頼、受付や警備などの支援をお願いする。

連携のための教職員の役割・姿勢

「家庭の役割」と学校との連携方法

「地域社会・企業・諸団体の役割」と学校との連携方法

学校と地域を結ぶ新たな仕組みづくり

平成21年4月 墨田区教育委員会事務局内に「学校支援実行委員会」を設置し、「学校支援ネットワーク本部」を発足、活動をスタートする。

学校の求めに応じ、地域の多様な人材等のボランティアを学校と結びつけ教育活動を支援するものである。墨田区ではこの事業を「学校支援ネットワーク事業」とし実施する。